

第3種郵便物認可

京 都 府 京 都 市

空襲後都市ガスの引火による火災で全焼した民家がれきのの上には息を吐き立てる女性がいる



比較的被害が少なかったとされる当時の天理教馬町宣教師。塀には弾痕状の穴が数多く見られる。壁に貼られた小さな紙(中央には「罹り」)災者応急住宅料(あつせん)受付所などと書かれている

1945年当時、地元写真店男性 撮影フィルムなど基に作成

「馬町空襲」パネルに

京女大生ら公開 「当時知る人、情報を」

1945年1月16日にあった「馬町空襲」の被害の様子を伝えようと、京都女子大(京都市東山区)の学生が当時の写真入り被害地図を作成した。初公開となる写真もあり、学内図書館で写真パネルと地図を一般公開している。



⑤がれきの撤去作業が行われる渋谷通。復旧作業にあたる女性や大八車が写っている(当時の写真は全て村中秀光氏撮影、村中修氏所蔵、京都女子大提供) ⑥被害状況を伝える写真と地図を展示する会場(京都市東山区・京都女子大図書館)



空襲当時に東山区今熊野で写真店を営んでいた男性(故人)が撮った写真や、戦前に系列の京都幼稚園に通っていた地元の女性の手元にあった写真が基になっている。

男性の孫にあたる同区在住の写真家村中修さんが、祖父の遺品のなかから空襲直後に撮った写真のネガフィルムを発見。同大学文学部の坂口満宏教授(日本史)に写真の画像データを提供し、坂口教授が日本史ゼミの3年生17人とともに昨年27日まで、無料。午前9時〜午後8時(土曜日は午後6時閉館)、日曜休館。

(太田敦子)

秋から写真を分析した。初公開の写真の中には「下京区渋谷通東大路東入三丁目上馬町」と書かれた町名表示板が写り込んでいるものも。通りのがれきを片付けるかたわら立ち話をする女性たちの様子や、園舎が大破した京都幼稚園など、空襲から数日後の街の様子を克明に伝えている。

坂口教授と学生らは、既存の資料などを参照しながら写真を手に実際に地域を歩き、当時の面影を残す場所を突き止めては地図に落とし込む作業を続けたという。地図を手にとって実際に地域を歩けるよう、A3サイズも会場で配布している。坂口教授は「空襲の事実を多くの人に知ってもらおうと同時に、当時を知る人からの情報も得られれば」と話している。